



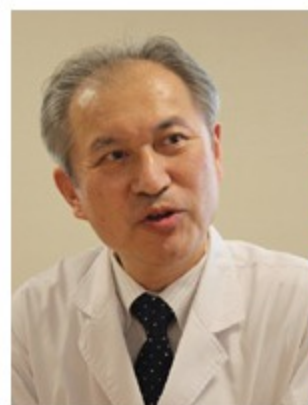
Q & A

専門の医師がお答えします

「慢性硬膜下血腫」

手術1回で完治ケース多い

京都久野病院 脳神経外科・リハビリテーション科部長
中原 功策 氏



Q 慢性硬膜下血腫とは。

A 軽微な頭部外傷が原因で、頭の骨と脳の間にくっきりと血がたまる病気で、比較的高齢男性に多く見られます。外傷後1～3カ月ほどかけて徐々に脳が圧迫され、転倒しやすくなる、言葉が出にくくなる、不自然な歩き方をしているといった症状が出ます。もの忘れなど認知症のような症状が見られることもあり、家族や周りの人の気付きで病院を受診されることが多いです。2割くらいの方は頭部外傷の既往なく発症します。近年、脳血管障害や心筋梗塞などの治療で抗血栓薬を使用している高齢者の発症が増えています。

Q 診断について。

A 診断はCT（コンピューター断層撮影装置）検査やMRI（磁気共鳴画像装置）検査を実施します。若い人であれば頭蓋内圧が上がって頭痛などの症状がありますが、高齢者の場合、脳が萎縮して隙間があるため初期の自覚症状はほとんどありません。高齢者の頭部打撲後、半身まひなどの症状が明らかになれば慢性硬膜下血腫を疑います。何かおかしいと感じる場合は医療機関を受診してください。

Q 治療と予後は。

A 治療は、血腫が小さく症状がない間は自然に治癒することもあるため、血腫の増大を防ぐ漢方薬の処方などで経過を見ます。症状が出てきた場合は、穿頭（せんとう）血腫洗浄術で頭蓋内の減圧を行います。局所麻酔で頭部に1センチほどの穴を開け、チューブを脳表面へ挿入して血腫を除去します。数日で退院でき1回の手術で完治することが多いですが、時に1カ月前後で再発することもあるのでその時は再手術を行います。病状の急変や突然死はありませんが、転倒や再発を繰り返す予後不良のケースもあります。高齢者の転倒には、十分注意してください。